

令和 7 年度
一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会
第 42 回定時総会

当協会の第 42 回通常総会が令和 7 年 5 月 30 日（金）、沖縄ハーバービューホテルで開催された。

総会では、友利専務理事の司会の元、議長に天願会長を選出し、議案審議を行った。

また、正会員 28 名中、出席者 16 名、委任状 5 名で、定足数 14 名を超え、本会が成立することが報告され、出席者の中から、前森康治及び具志堅斉を議事録署名人に選出された。

議事として、第 1 号議案、第 2 号議案が提案され、監査報告書については、高江洲昌太郎監事から報告があり、両案とも全会一致で承認され、上原副会長の挨拶で閉会した。

議事

I、第 1 号議案

- (1) 令和 6 年度 事業報告の件
- (2) 令和 6 年度 決算報告書
(正味財産増減計画書、貸借対照表、財産目録)
- (3) 監査報告書

II、第 2 号議案

- (1) 令和 7 年度 事業計画書（案）
- (2) 令和 7 年度 収支予算書（案）

< 総会の様子 >



天願議長 挨拶



高江洲監事 監査報告



総会の様子 (1)



総会の様子 (2)

「設備合同懇親会」

＜挨拶＞

(一社) 沖縄県設備設計事務所協会
会 長 天願 清政



只今、紹介を頂きました一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会の天願でございます。

それでは、主催者を代表して、開会の挨拶を述べさせていただきます。

本日は、年度初めの大変お忙しい中、来賓の皆様、賛助会の皆様、並びに関係者の皆様方には、沖縄県設備設計事務所協会、建築設備技術者協会九州支部沖縄支所、両団体共催の合同懇親会に、ご出席を賜りまして、誠に有難うございます。

本日、当ホテルにおきまして、当会及び当支所の令和6年度の事業報告、決算書並びに令和7年度の事業計画、及び予算書の承認を得て無事に総会が終了したことを御報告致します。

さて、設備設計事務所協会は、今年で創立42周年を迎えました。人生でいえば、まさに働き盛りというところでしょうか。おかげさまで、正会員数が28社、準会員4社、賛助会員128社の関係者で協会が成り立っており、設備関係の技術講習会や施設見学会等、スムーズな協会運営に御協力を頂いております。誠に感謝申し上げます。

設備設計は建築設計と異なり、派手さはありませんが、設備設計の標語として、そこに「電気、水、ガスがあるから家になる」すなわち、快適に住む人のための家づくりとして、設備設計を目指しております。さらに「すやすや」のわけは私たちかもしれません」をモットーに建物における「水、空気、電気」という環境・エネルギーの最適化を目指し、人にやさしい空間を目指し、設備設計に取り組んでおります。

また、今年度から、建築基準法の改正として、建築物省エネ法が公布されました。すなわち、今年4月から、省エネ性能の底上げを目的に、建築確認では従来の省エネ適合、届出、説明義務に加え、原則としてすべての新築住宅、・非住宅

に対し、省エネ基準の適合が義務付けされます。さらに2030年までには省エネ基準が ZEH や ZEB 水準まで引き上げられることが予想されています。このことは、今後の建築確認においては、建築の構造計算同様に省エネ計算が必須となります。ついては、本日の共催である建築設備技術者協会の正会員で、省エネ判定員の資格要件にもなっている、「建築設備士」の役割が益々重要になってきます。先に述べた「人にやさしい空間」に合わせて、地球温暖化対策として、省エネ住宅の建設に建築設備士の知識が求められています。

さて、当会は、昭和 58 年に技術者団体として発足した設備設計事務所ですが、2003 年には法人化が許可され、現在は公益性の高い一般社団法人として、建築設備の設計、監理業務の進歩・改善及び設備設計事務所の適正な運営及び資質の向上に努め、公共の福祉の増進に寄与することを目的として今日に至っており、私で 18 代目の会長となります。

私たち設備設計を取り巻く環境は年々複雑、多様化してきております。手書きの図面作成から CAD になり、製図板からパソコンに変わりました。さらに、新たな取り組みとして BIM の活用があります。BIM の導入は、BIM 習熟までの時間や入力時のデータ量の多さなど課題が多々、ありますが、新技術の導入に向け、会員一同、積極的に取り組んで行く所存であります。

又、改正建築省エネ法への対応や ZEB、ZEH 等の省エネ水準の確保等、省エネ設計に向け、我々設備設計の力がより必要とされることを感じております。

さらに、年々、建築物が大型化、多様化する中、新技術の導入や省エネを考慮した快適空間形成、災害時における建物機能維持等、建築設備の果たす役割は益々増加しており、建築設備技術者の対応力が求められています。協会としてもそのことを十分に認識しながら会員すべてが職能集団として、建築設備士等の資格取得を奨励しその職務を果たして行く所存でございます。

最後になりますが、ご出席の皆様のご多幸、ご健勝を祈念し、主催者の挨拶に代えさせて頂きます。本日は、最後までごゆっくりご歓談下さい。有難うございました。

<懇親会 会場>



